



吉野地区防災計画



吉野まちづくり協議会
福島区役所

令和元年12月 作成



もくじ

1. 基本方針 P1

- (1)目的
- (2)計画の対象地域
- (3)活動目標

2. 吉野地域の特性と予想される災害 P2

- (1)地域の特性
- (2)防災面からみた吉野地域
- (3)海溝型地震(南海トラフ巨大地震)
- (4)直下型地震(上町断層での地震)
- (5)液状化可能性想定図
- (6)津波被害・河川氾濫・内水氾濫での被害
- (7)福島区の被害想定
- (8)吉野地域の被害想定

3. 自主防災組織 (災害対策本部、避難所運営委員会、町会) P7

- (1)組織
- (2)地域災害対策本部の組織図・役割
- (3)避難所運営委員会の組織図・役割
- (4)町会の自主防災組織図・役割
- (5)避難所開設の準備

4. 自主防災組織および個人の日頃の取り組みと発災時の行動 P10

- (1)日頃の取り組み
- (2)災害時の取り組み

5. 避難行動要支援者支援計画 P13

- (1)要援護者名簿を活用した支援の実施
- (2)「避難行動要支援者名簿」の作成
- (3)「避難行動要支援者名簿」の管理方法
- (4)「避難支援プラン(個別計画)」の作成
- (5)避難行動要支援者への自助の促進

6. 災害時ボランティア P15

7. 備蓄について P15

8. 自主防災組織の訓練 P17

9. その他 P17

防災マップ P18

<資料編> P20

1. 基本方針

(1) 目的

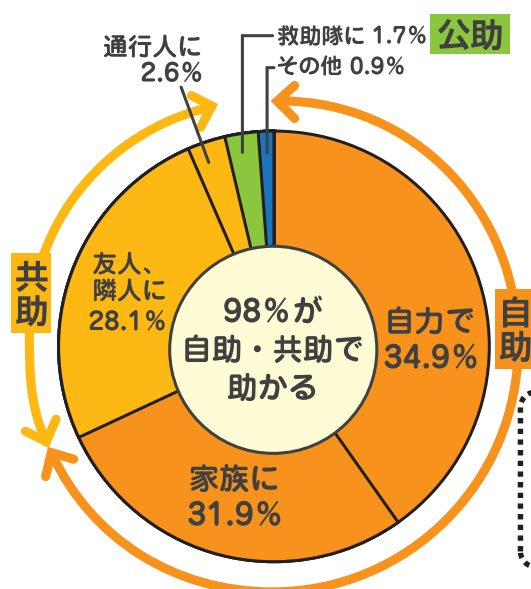
この計画は、吉野地域住民の防災活動に必要な事項を定め、『自助』『共助』が一体となって、地震など災害による地域の人的、物的被害の発生及び、その拡大を防止することを目的とします。

(2) 計画の対象地域

この計画の対象地域は、吉野連合（吉野1丁目、2丁目、3丁目、4丁目の一部）とします。

(3) 活動目標

地域の住民、自主防災組織の各メンバーによる『自助』『共助』を基本とした継続的な防災活動や訓練を実施し、防災力向上に努めます。



災害被害を軽減するには、連携が重要です。

自助：自分（家族）の命を自分（家族）で守ること
共助：地域の皆さんで互いに助け合うこと
公助：国や市の行政機関が対策を行うこと

(社)日本防災学会：「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」より

阪神・淡路大震災では、生き埋めになり救助された人の98%が自助・共助で助けられました。

一方、公的機関によって生存したまま救出された人はわずか1.7%という記録が残っています。

2. 吉野地域の特性と予想される災害

(1) 地域の特性

東西に長く伸びる吉野地域は、古くからの住宅が密集しながら、近年は中型のマンションが増えつつあり、地域内には福島警察署・福島消防署・福島区民センターなどの公共施設があるとともに、福島区役所に隣接しているなど、福島区の中心地に位置するといっても過言ではない地域です。

また、大阪メトロ野田阪神駅および玉川駅やJR野田駅、海老江駅、阪神電鉄野田駅などが付近にあるとともに、国道2号線や新なにわ筋など幹線道路が地域を走っており、非常に交通の便が良い町です。

さらには、昔からの商店街があるとともに、隣接地には大手スーパーがあるなど、生活面でも大変便利で住みやすいことから、子育て世帯や単身者が増えています。

一方、地域においては、盆踊り・区民まつり・餅つき大会などのさまざまな行事が、地域一丸となった協力体制のもとで行われているとともに、高齢者食事サービスやふれあい喫茶なども盛況に行われるなど、人々のつながりが強い充実した町会組織となっています。



【高齢者食事サービス】



【ふれあい喫茶】



【盆踊り】



【清掃活動】

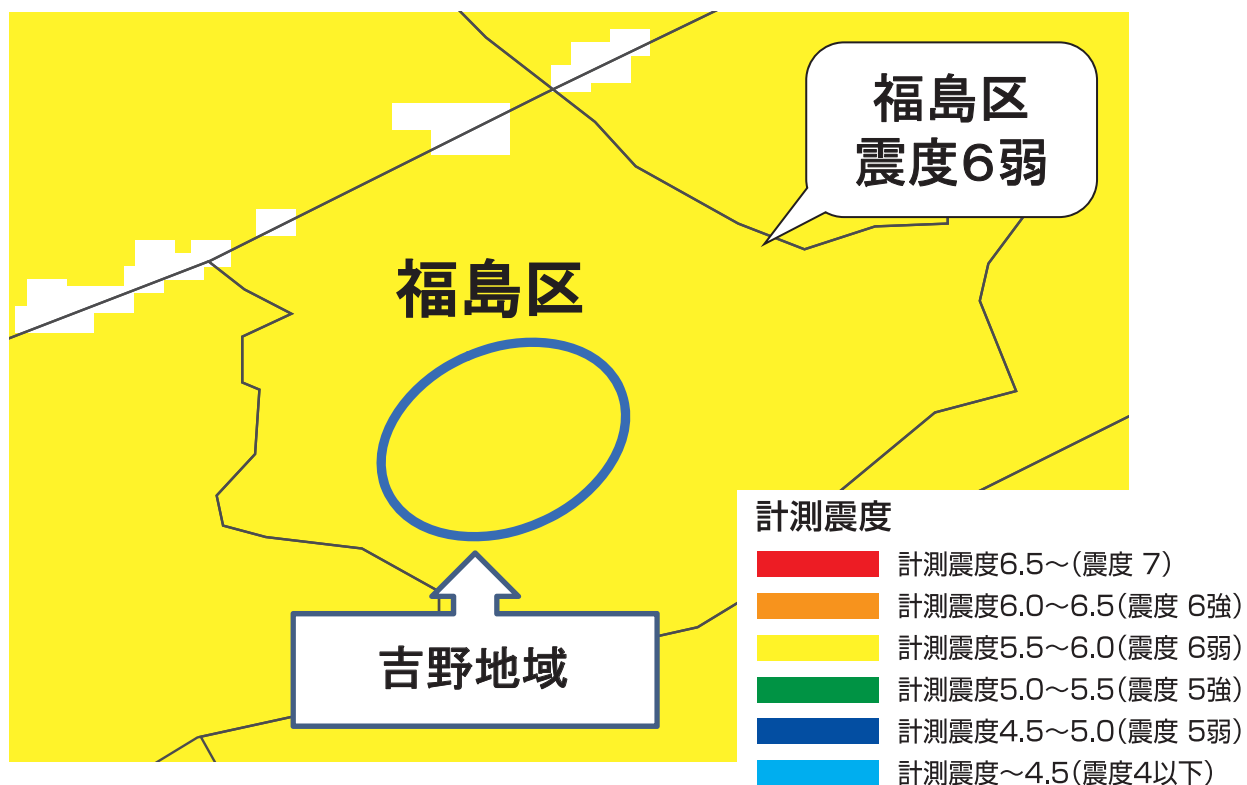
(2) 防災面からみた吉野地域

吉野地域を防災面からみると、昔からの木造家屋が多く、路地も狭いところが多いことから、火災が発生した場合、消防車が近くまで行くことが出来ないため、被害が拡大する恐れがあります。

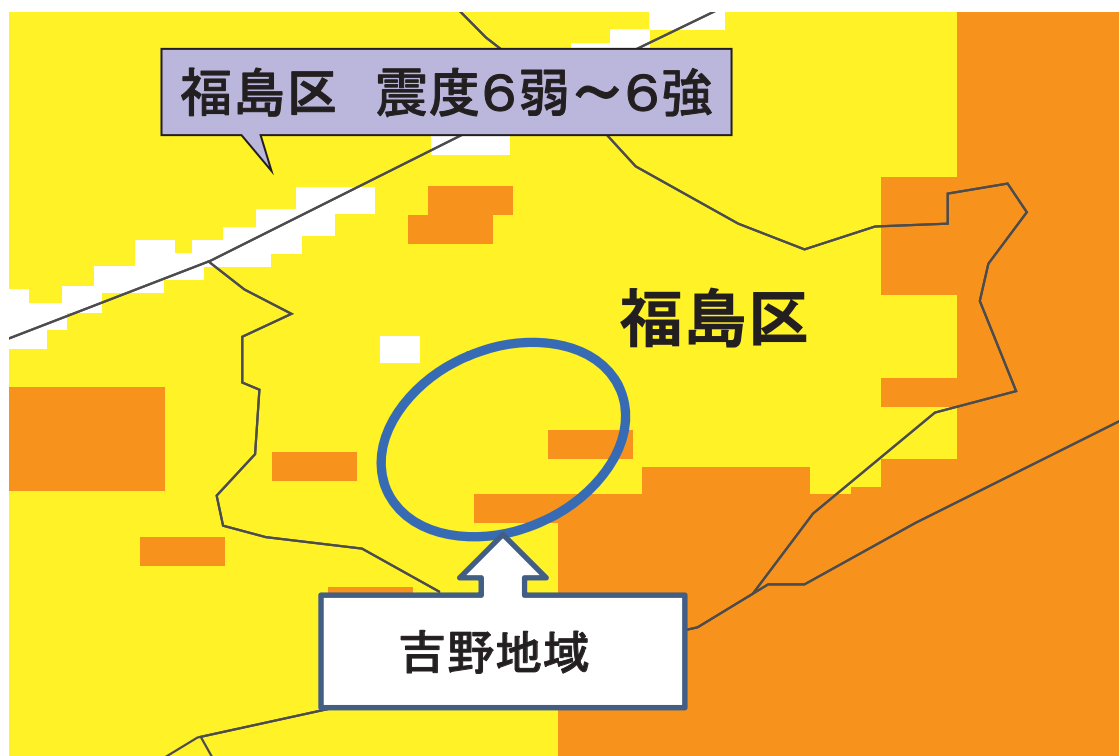
さらには、地震の揺れによる家屋の倒壊の危険性も高く、倒壊した家屋が道路をふさぎ、通行が遮断される恐れがあり、消火活動や家屋の下敷きになった住民の救助が困難となることが想定されます。

また、地域は東西に伸びており、避難場所の吉野小学校や、地域の集会所の吉野コミュニティセンターはいずれも地域の西部に位置していることから、東部にお住まいの方や商店街での買い物客などが避難するための案内図や誘導サインの設置等について検討する必要があります。

(3) 海溝型地震(南海トラフ巨大地震)



(4) 直下型地震(上町断層での地震)



震度6弱、6強、7とは

電気・ガス・水道などのライフラインはストップすることも予想されます。

震度 6弱

- 立っていることが困難になる
- 未固定の**重い家具の多くが移動、転倒**する
- かなりの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損

震度 6強

- はわないと動くことができない
- 未固定の**家具のほとんどが移動し、転倒**する
- 壁のタイルや**窓ガラス**が破損

震度 7

- 揺れに翻弄**され、飛ばされることもある
- 未固定の**家具は飛ぶ**こともある
- 補強済みの**ブロック塀も破損**するものがある



海溝型地震の被害状況

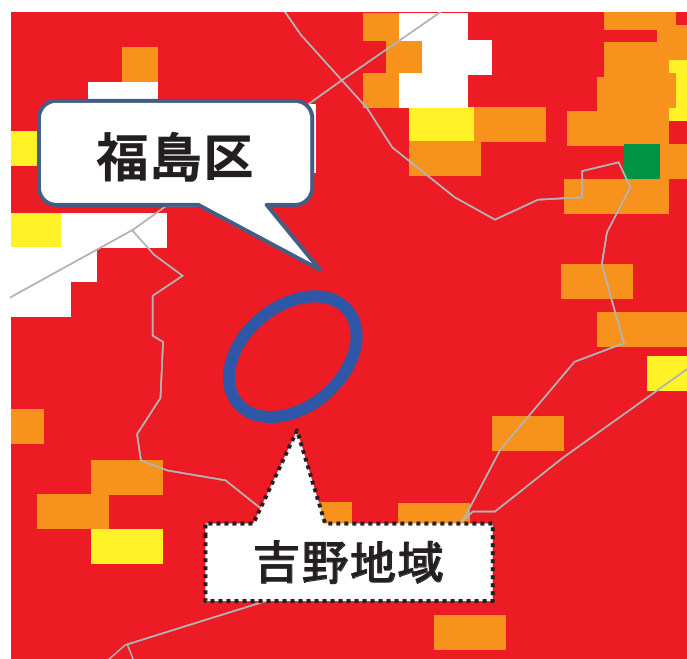
大きく長い揺れで津波がくる可能性がある。



直下型地震の被害状況

揺れている時間は短いが、強く激しく揺れて高い建物でも大きく破損するものがある。

(5) 液状化可能性想定図



液状化とは...

液状化現象とは、水を含んだ砂質地盤が、地震の際に液体のように噴き出す現象。建物が倒れたり、砂まじりの水が地表に噴出したり、地盤が亀裂・沈下したり、地下に埋設されている空洞の構造物やマンホールが、地表に浮き上がることもあります。

液状化が
起こりやすい



起こりにくい

福島区では、全体的に液状化が起こりやすい地域となっています。液状化の被害が出ると亀裂や泥などで容易に通行ができず、避難路であっても機能しにくくなります。

(6) 津波被害・河川氾濫・内水氾濫での被害



□ 淀川が氾濫した場合の被害・・・・・・約5.5m(最大) 赤色ライン
[総雨量500mmの降雨(昭和28年9月洪水(台風13号)の2倍の降雨(東海豪雨級))を想定]

□ 南海トラフ巨大地震による津波被害・・・・約3.0m(最大) 青色ライン
[マグニチュード9.1程度の地震が発生し、最大クラスの津波による浸水が起きた場合(防潮堤の沈下や防潮施設の開閉状況を考慮)(満潮時を想定)]

※福島区内においては、津波により最大3mまで浸水することが想定されています。

□ 豪雨などによる内水氾濫の被害・・・・約0.5m(最大) 黄色ライン
[総雨量597mm、時間最大雨量93mmの降雨(東海豪雨級の降雨)を想定]

(7) 福島区の被害想定

(大阪市危機管理室編集)

区 分	上町断層帯地震 (震度6弱～6強)	東南海・南海地震 (震度5強～6弱)
全壊棟数	木造 2, 295棟 非 201棟	木造 589棟 非 40棟
半壊棟数	木造 2, 190棟 非 532棟	木造 1, 015棟 非 148棟
負傷者数	1, 292～1, 464名	634～685名
避難者数	5, 180名	1, 636名

(8) 吉野地域の被害想定

(大阪市危機管理室編集)

区 分	上町断層帯地震 (震度6弱～6強)	東南海・南海地震 (震度5強～6弱)
全壊棟数	木造 461棟 非 45棟	木造 122棟 非 9棟
半壊棟数	木造 419棟 非 111棟	木造 203棟 非 33棟
負傷者数	205～221名	113～120名
避難者数	1, 050名	341名